

平成27年度

学校評価報告書

学校名	文京区立	湯島小	学校
校長氏名	原	香織	

学校評価報告書(文京区立 湯島小学校)

NO. 1

<自己評価及び学校関係者評価を踏まえた全体考察>

本校では、教育目標「◎よく考え、ねばり強くやりぬく子ども、○力を合わせて、人のためにつくす子ども、○じょうぶなからだと心の豊かな子ども」のもと、目指す学校像を、「確かな学力と豊かな心、健やかな体が育つ学校～向学の気風にあふれ、まちと響き合う湯島の教育～」とし、教職員が「創造力と活力にあふれる教育のプロ集団」となり、児童密着型の教職員による地域密着型の学校づくりを推進している。

今年度は、昨年度の学校評価の結果を受け、「文京区教育振興基本計画」と本校の教育目標とを関連付けながら、①主体的な学びの実現、②ICTを活用した授業改善、③地域と連携した教育活動の推進、④心の教育の充実、⑤体力向上の取組の5項目を重点事業とし、全教職員が教育のプロとしての力を発揮して「学校がすき まちがすき 誇り高き 湯島の子」の育成に全力を尽くした。

自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、今年度の目標は概ね達成できたととらえている。

特に、主体的な学びの実現とICTを活用した授業改善に向けた取組については、保護者や学校関係者からも賛同を得ることができた。さらに、2月17日に実施した「タブレット端末等を活用したICT教育モデル事業」研究報告会に、文京区ならびに日本全国から来校された校長、教員から多くの支持を得ることができた。

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
確かな学力の定着	主体的な学びの充実	基礎的・基本的な知識・技能の定着 思考力・判断力・表現力の育成	朝のドリル学習(チャレンジタイム) 朝の読書活動 音読発表会(チャレンジステージ) 漢字検定 家庭学習との連携 問題解決的学習 体験学習 専門家による特別授業 保護者等への発表授業 図書館を使った調べる学習 学習発表会	7割の教員が、児童が主体的に問題解決する学習活動を問いいれることができたと考えている。3割の教員は、やや不十分であったと考えている。 専門家による特別授業は、47回実施した。そのほか、体験学習、保護者参加型授業も数多く実施した。 図書館を使って調べる学習コンクールにおいて、文京区では教育長賞などを受賞し、全国では文部科学大臣賞を受賞した児童が出た。	A	教員の授業力向上のために、授業研究会、研修会を行う。 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、チャレンジタイムの充実、放課後学習の検討、夏季学習教室の内容検討などを行う。 図書館の利活用を増やす取組を行う。
ICTを活用した授業改善	ICTを活用した分かる、楽しい授業デザイン「湯島モデル」の確立	タブレット端末などのICTを活用した授業改善 児童の情報活用能力(情報モラルを含む)の育成	学校力パワーアップ事業」の活用 ・ICTを活用した授業研究 ・ICTを活用する環境整備 ・校内研究の推進	タブレット端末等を活用したICT教育モデル事業のモデル校として、授業デザイン「湯島モデル」を構築し、2月17日に研究報告会を行った。区内53名、区外の都の教員34名、他の府県の教員70名、民間企業39名、保護者地域住民23名が参観した。	A	情報活用能力育成の研究に取り組む。 情報モラル教育の研究に取り組み、eルール作成、SNS利用ルールの作成などに取り組む。

(評価基準 A: B: C: (D:))

学校評価報告書(文京区立 湯島小学校)
NO. 2

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
まちと響き合う教育の実践	地域と連携した教育活動の推進	地域の特性を生かした授業の実践	保護者、地域による「湯島の学びサポーター」活用 専門家による特別授業 保護者参加授業	85%の教員が地域の特性を生かした授業実践できたと考えている。 専門家による特別授業は、47回実施した。そのほか、体験学習、保護者参加型授業も数多く実施した。 愛菊会5人、保護者菊サポーター40人、地域住民の協力を得て体験学習や特別授業を行った。 総合的な学習の時間、生活科等の授業や校外での活動に多数の保護者が参加した。	B	『生きる力』実現・学校カパワーアップ事業」を活用し、地域人材や地域の文化を生かした特別授業を今後も実施する。 企業CSR活動を活用する。
		特別支援教育の充実 人と自然との豊かなかかわり	交流及び共同学習の推進 花育 学習規律の徹底 挨拶・返事・後始末の励行	100%の教員が、「交流及び共同学習ガイドライン」に基づき、特別支援学級と連携を図って実施できたと考えている。 保護者と相談した個別指導計画に基づき交流及び共同学習を毎日実施した。通常の学級の教員と特別支援学級の教員が毎日打ち合わせを行い、学習の計画、準備を行った。 菊189鉢、チューリップ3500球、ひまわり250苗等を育てた。育てた花を、地域の関係者、機関に配布した。 90%の教員が、学習規律の徹底、挨拶・返事・後始末の指導ができたと考えている。	B	若手教員の生活指導力を向上させる。 障害者差別解消法の施行を踏まえ、インクルーシブ教育システムの構築に取り組む。 花育の継続実施し、充実させる。
健やかな体の育成	体力向上の取組	運動の日常化 専門家の出前授業の実施 食育の充実 健康教育の充実	オリンピック・パラリンピック特別授業 健康トレーナー授業支援 体力向上アドバイザー教員研修 弁当作り体験 野菜づくり体験	オリンピック、パラリンピックによる特別授業を2回実施した。 健康トレーナー、体力向上アドバイザーを活用して、授業改善、教員研修を行った。体力テストの記録を体力向上につなげるようにした。 業間体育の内容を見直し、2学期後半から実施して、児童の運動意欲を向上させた。 弁当作りをホームページやランチタイムで紹介し、活発化させた。 花育とともに、野菜作り体験を実施し、学習発表会で成果を発表した。	B	オリンピック、パラリンピック教育カリキュラムの作成し、実施を始める。 体力向上を目指した業間体育の内容充実に取り組む。

(評価基準 A: B: C: (D:)

<学校の自己評価及び関係者評価を踏まえた教育委員会への要望事項>

1 緊急を要する事項

- ☆教室のドアの改修、交換(サッシのゆがみによる開閉の不具合解消)
- ☆校舎外壁の補修(錆の除去と塗装)
- ☆タイルカーペットの補充予算の援助

2 財政面

3 人事面

4 設備面

5 その他

- ☆学校防災計画における学校施設の開放への配慮(児童避難スペース、教育機能回復スペースとしての教室の確保が必要である。)

平成 27 年度 文京区立湯島小学校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員

委員長	高 田 善 次			
委員	森 由紀男	小岩井 聡	山 口 裕 子	
	木 村 裕 子	岡 崎 礼 子	本 山 椽 子	
	森 山 秀 実			

評価時期

第 1 回学校関係者評価委員会 平成 27 年 5 月 12 日 (火)

- 委員委嘱及び紹介
- 平成 27 年度文京区立湯島小学校学校経営方針について
- 今年度の教育活動及び学校関係者評価について
- 意見交換

第 2 回学校関係者評価委員会 平成 27 年 11 月 5 日 (木)

- 湯島小学校教育活動について
- 中間評価 (前期学校評価) の結果について
児童及び保護者アンケート、教職員自己評価の結果と意見交換
- 各種教育活動参観での感想及び意見交換
学校関係者評価委員「学校参観シート」集計結果について

第 3 回学校関係者評価委員会 平成 28 年 3 月 1 日 (火)

- 後期学校評価の結果について
児童及び保護者アンケート、教職員自己評価の結果と意見交換
- 学校関係者評価委員共通項目評価と意見交換
- 評価報告書案の検討と意見交換

学校関係者評価委員の教育活動参観 随時

- 教育活動の参観
授業、学校行事 (運動会、学習発表会等)、日常活動の参観

学校関係者評価報告書の提出 平成 28 年 3 月 25 日 (金)

1 総括的意見

学校経営方針

学校の使命は、自立と共生の社会を築き、未来を切り拓く人間を育てる教育の創造であると考えている。そこで、自然や様々な人とのかかわりを大切にし、互いの個性を認め合いながら感動体験を積み重ねることにより、夢を持ちチャレンジする意欲を高め、確かな学力・豊かな心・健やかな体、そして社会性の育成に全力を挙げて取り組むという経営理念に基づいて学校経営方針が設定されている。その推進には、教職員は授業力と学級経営力を磨き、児童理解力やコミュニケーション力等を高めることが肝要である。この経営方針は、数年間変わることなく学校の教育計画の策定や教育指導に反映されている。課題解決への教師の努力があり、活気に満ちた多様な教育活動が展開されている。

昨年度は、

- ・ 子どもに開いた厳しさと温かさのある学校をつくる
- ・ 教職員に開いた学校をつくる
- ・ 保護者や地域に開いた親しみと信頼のある学校をつくる

という基本的な方針にそって、

- ① 今日の教育課題に積極的に取り組む
- ② 地域に根差した特色ある教育を進める
- ③ 確かな学力を定着させる
- ④ 子どもが安全に楽しく落ち着いて生活できるよう運営を充実する
- ⑤ 教職員がチームの一員として協力・協働する組織体であることを自覚する
- ⑥ サービスの厳正を徹底する

という方向性を明確にした学校運営では、一定の成果を上げたものと考えている。

(昨年度評価報告書)

今年度は、昨年度の学校評価の結果を受け、「文京区教育振興基本計画」と本校の教育目標「よく考え、ねばり強くやりぬく子ども 力を合わせて、人のためにつくす子ども じょうぶなからだと心の豊かな子ども」とを関連付けながら、

- ① 主体的な学びの実現
- ② ICTを活用した授業改善
- ③ 地域と連携した教育活動の推進
- ④ 心の教育の充実
- ⑤ 体力向上の取り組み

を重点事業とし、全教職員が創造力と活力にあふれる教育のプロとしての力量を発揮して「学校がすき、まちがすき、誇り高き湯島の子」の育成に全力を尽くし、学

校運営を推進してきた。

年度当初は、学級の編成替え、学級担任の異動等、子供たちを取り巻く環境の変化があり、子どもたちや保護者に不安や動揺がうかがわれたが、子どもたちは学校生活に慣れるにしたがって、落ち着きを取り戻し、あらゆる活動に秩序ある行動がみられ、楽しく活気に満ちた学校生活の様子が窺われるようになった。あわせて、保護者たちの協力、信頼も深まってきたと感じられるようになった。

学校経営方針は、教育活動の随所に浸透されているものと確信している。

「はじめに子どもありき」、「学校は子どものためにある」という前校長からの学校経営の理念は現校長に引き継がれ、概ね確立されたものと考えている。

学校経営方針及び教育計画は、学校公開、保護者会、公開講座等を通して保護者や地域に浸透されていること、ホームページや学校だより、学年だより等によって教育活動の公開が十分にされていること、等から、学校は公教育としての説明責任は果たしているものと判断している。

学校関係者共通項目評価

学校関係者評価委員は、経営方針に基づいて実施された学校公開授業・運動会・学習発表会をはじめ、様々な学校行事を参観した。評価委員会では、参観をもとに各委員が作成した参観シートや教職員、保護者、児童を対象にしたアンケート等を資料にして、委員相互の意見交換をしながら総合的な評価を行った。

学校関係者共通項目評価は、学校としての「学校評価（目標→取り組み→評価→改善）」への取り組みについて、評価委員が評価した。

学校関係者評価委員（8名）は、学校関係者共通項目評価シートを用いて、個別に評価を行った。評価委員会としては、特に評価の基準を設けず、委員各自の判断によって評価をした。

- ・評価実施期間 平成 27 年 12 月中旬
- ・評価項目 下表に示した 5 項目
- ・評価の数値化 各項目を 4 段階で評価し、数値化した
とてもそう思う…………… 4
おおむねそう思う……… 3
あまりそう思わない… 2
そう思わない…………… 1
- ・評価の点数化 各委員から提出された評価シートを集計し、各項目ごとに各委員が評価した数値の平均値をだし、A～D の 4 段階で評価した。
A… 4～3.4 以上 B… 3.4 未満～2.6 以上
C… 2.6 未満～1.8 以上 D… 1.8 未満

学校関係者共通項目評価のまとめ

	評 価 項 目	評 価
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	A
2	具体的取組の設定は適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。（学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	A

	とてもそう思う	概ねそう思う	あまり思わない	そう思わない	平均点数
評価項目 1	7 (人)	1 (人)			3.875
2	7	1			3.875
3	4	4			3.5
4	4	4			3.5
5	5	3			3.625

委員会の評価は各項目とも A（全委員の評価の平均値；3.4 以上）であった。

このことは、学校経営方針に沿って学校運営が適切に進められ、着実に成果を上げていることを表していると考ええる。

今後も、すべての項目で「とてもそう思う」という評価が得られるようになることを期待する。そのためにも、学校経営方針に基づいた教育活動について、学校公開や情報発信等が継続されることが望まれる。

2 肯定的な意見

(1) 「学校運営」について

保護者対象アンケート

- I アンケート実施時期：前期 平成27年7月8日～7月17日
後期 平成27年11月27日～12月14日
※ 以下のアンケートの結果は後期のものである
- II 回収率：87% (238人/273人)
<内訳> 1年 83% 2年 79% 3年 82%
4年 100% 5年 90% 6年 90%
- III アンケートの回答：各項目ともA～Dの4段階で回答していただいた。
A；よくあてはまる
B；ややあてはまる
C；あまりあてはまらない
D；あてはまらない
- IV アンケートの結果(評価)：全学年の結果を集計して、「A；よくあてはまる」「B；ややあてはまる」の合計回答数をもとに評価しました。評価は、「A；よくあてはまる」、「B；ややあてはまる」の合計回答の割合が、
90%以上→→→→→→→→A
90%未満80%以上→→B
80%未満→→→→→→→→C
の3段階で評価をした。
- 保護者を対象にしたアンケート調査は、毎年、前期(7月中旬)と後期(12月中旬)に実施している。表中の評価欄の一、△、▼は、前期と後期を比較したもので、
一は、前期評価時と同じ
△は、前期評価時より向上した%、
▼は、前期評価時より下がった% を表している。
- いずれの調査でも、下表の学校運営に関わる質問項目では、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の「肯定する」という回答が大多数を占めた。
- また、このアンケート調査は、毎年同様の項目で実施しているが、「肯定する」という回答が、毎年95%を超えている。年々僅かではあるが「肯定する」割合が増えている。このことから、湯島小学校の学校運営は大多数の保護者の理解が得られているものと考えられる。

アンケートの結果（評価）

質 問 項 目	評 価
① 子どもたちは、学校が楽しいと感じている。	A (97%) △ 2
② 保護者として、本校の教育活動に満足している。	A (97%) △ 1
③ 学校は、一人ひとりの子どもを大切に、子供の人権に配慮した教育を行っている。	A (99%) △ 2
④ 学校は、安全・安心で、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A (99%) △ 2
⑤ 学校は、特色ある学校づくりに積極的に取り組んでいる。	A (98%) △ 1

すべての項目で97%以上の保護者に理解を得ている。また、次のような肯定的なご意見を多数いただいている。

- ・ 一人ひとりに応じた声かけや指導をしていて、クラス全体が落ち着いた様子で安心している。
- ・ 地域に根ざした教育がとても素晴らしい。これからも続けて欲しい。
- ・ 地域に根ざした取り組みは、子どもたちにとっても、地域にとっても良いことである。
- ・ 保護者サポーターとして、職場体験で地域の商店、学校、警察署などに行かせてもらい、色々なことを学んだ。
- ・ 学校公開が行われているので子どもの様子をよく見ることができ、また、成長していく姿も分かるので、保護者としては本当にありがたい。
- ・ 様々なゲストの講師を招いて、特色ある素晴らしい学校づくりだと思う。

他にも、少数ですが、次のようなご意見もいただきました。

- ・ 自由研究にあまり重きを置いていないように感じた。
- ・ 能に触れる機会がなくなってしまったのは、日本文化に触れる良い機会がなくなってしまったように感じ残念に思った。

こうしたご意見をしっかり受け止めることが必要です。学校としての見解（下記）を通知して、保護者への理解を求めた。

- ・ （自由研究の指導については）1学期中に、テーマを設定できるよう全学年で指導しています。2学期には、全児童の作品を見合う時間を設定し、学びの意欲を高めています。校内で代表を決め、全校朝会で表彰し、意欲を高めています。

高学年については、今年度より、都の科学研究が加わりました。高学年の児童は、自由研究か科学研究のどちらかを選択して取り組むようにしました。

区や校内で優秀賞を受賞した児童の作品を展示し、児童が調べるテーマを考えたり、調べ方を参照したりできるようにしています。また、各学年の代表作品の中から、2～3ページ程度、ホームページに掲載し、意欲を高めていきたいと思えます。

- ・（伝統文化に触れる機会について）今年度も、積極的に日本の伝統文化に触れる機会を設定しています。新たに落語の授業を行い、児童の実態に応じた学習を行っています。また、邦楽、華道、茶道の各教室は、今年度も継続して取り組んでいます。

発達段階に応じて学習する内容を検討し、学習が深まるようにしています。

アンケートの結果と寄せられた意見のすべてを全保護者に周知し、学校の考え方の理解を得るように努めているが、学校公開や学校行事の充実、保護者会や学校ホームページ等を活用した積極的な情報発信などを通して、家庭・地域との信頼関係を深めていくことが必要であると考えます。

教職員の自己評価

I 自己評価実施時期：平成 26 年 8 月及び 12 月

- II 自己評価の実施：各項目とも A…達成している
 B…ほぼ達成している
 C…やや不十分
 D…不十分
 E…評価できない
 の 5 段階で回答する。

*担任・専科は「A～D」評価は必ず行う。

*「C～D」と回答した方は、具体的な改善策を記入する。

教職員による自己評価は、前期（8月）と後期（12月）の2回行われている。

自己評価は、毎年度同じ評価項目で実施されているが、年度によって教職員の移動があるため、自己評価の結果には若干の違いがみられるが、C,Dの評価は極めて少数である。

下表は、学校運営に関わる自己評価の結果である。

評 価 項 目	A	B	C	D	E
① 日々の教育実践は計画的に行い、課題には誠実・迅速・柔軟に対応できた。	1	13	1	1	2
② 自分の分掌において、各自の経験や専門性を生かし、工夫して提案できた。	2	12	4	0	0
③ 生活指導では、組織的に問題解決の方策を考え、共通理解のもとに指導できた。	2	13	0	1	2
④ 報告・連絡・相談・記録を行うことができた。	4	12	1	1	0
⑤ 少人数指導教諭との連携や学年部会を生かし、協力・協働に努めることができた。	3	8	1	1	5

【改善策】

- ・ 仕事を覚えて、工夫できるようにする。
- ・ 校務分掌が重い。分掌の対等合併などを図り、メンバーを同じにすれば進歩が確かめやすいのではないか。
- ・ 会議について、→月火水木の1日でも構わないので、会議をなしにする日は作ることはできないでしょうか。教材研究や放課後の丸付けができず、一番大切な学習指導が不十分です。少し会議を緩和してもらうことはできないでしょうか。
- ・ 早朝サッカー廃止→一部の児童のためにしかなっていないので、朝遊びはどうか。
- ・ 学級のめあて発表集会廃止→めあての立て方が教師主導のため。
- ・ 入学式に参加する学年について→高学年としての意識もたせるため、5, 6年生の参加でどうか。
- ・ 学級委員の配置づけについて今一度、共通理解がしたい。活躍すべき場を考えたが、今一つ位置づけられなかった。5, 6年の学級委員だけでよいのではないか。

自己評価の結果については、すでに教職員間で話し合いが行われ、問題点の確認し改善策が策定されている。

特別支援学級と交流共同学習

湯島小学校では、生きて働く学力を目指した新学習指導要領による指導も定着し、「交流及び共同学習」を含め、特別支援教育の充実も図られつつある。

特別支援学級「すずかけ学級」では、障害をもつ子どもの能力を最大限に伸ばし、一人ひとりの子どものもつ課題を改善するため、子どもの能力や課題等に応じて、通常学級との交流が意図的・計画的・積極的に行われている。

公開授業や運動会・学習発表会等の行事を通して、すずかけ学級の子どもたちの生き生きとした活動に、担当する先生方の熱意、努力が感じ取れるとともに、全ての教職員の協力体制が確立されていることが実感できる。

公開授業や行事等を参観する保護者は極めて多く、子どもの目線に立った指導の工夫、子どもが学びやすい学習環境の整備、子ども同士の間関係の確立等に努める先生方への信頼感の深まりが感受できた。

また、評価委員から以下のような感想も寄せられている。

- ・ すずかけ学級は友達が発表しているときに静かに見て、応援していることがあり、とてもお行儀がよかったです。
- ・ すずかけ学級の授業を参観いたしました。何人もの先生でそれとなく手を貸して

授業を進めているのを拝見し、感動しました。
交流共同学習は、通常学級の子どもたちに対しても人間性の涵養面からも大変好ましい影響をもたらしていると思う。

(2) 「学習指導」について

学校経営方針「確かな学力を定着させる」を具現するため、①基礎・基本の徹底を図る、②考える力を高める教育に取り組む、を重点に学習活動が展開されている。

学校教育は、知識の伝達のみではなく、一人ひとりの子ども的人格を磨き、人間性を高めることにある。それを念頭に学習指導に取り組むことが大切である。

教育は、教師と子ども的人格の触れ合いで、感化することにより、子ども的人格、人間性、を高める活動であると思う。そのためには、教師自身が人格を磨き、人間性を高めることが肝要である。教師は、目の前にいる一人ひとりの子どもをしっかり見つめ、良い芽・伸びる芽を見出し、その芽をどう伸ばすか、どう育てるか、を常に考えて指導にあたらなければならない。

学習指導の過程は、教師の人格と子ども的人格の触れ合い、絡み合いである。そして、子どもの学びたいという気持ち(学習)と先生の学ばせたいとの思い(指導)とが一致することによって、成果が得られるものと思う。学習の成果は、時間の積み重ねで徐々に表れてくるのではないだろうか。従って、授業の一場面、行事の一場面を参観しただけで評価することは難しいと思う。

評価委員会では、各委員が様々な角度から「学習指導」を見るように努めた。

学校関係者評価委員の「学校参観シートの記述」

評価委員会では、各委員から提出された参観シートの記述をもとに、公開授業を参観した際の子どもたちの様子や教員の指導の様子等について、率直な感想を話し合うように努めた。

以下に参観シートの記述を羅列する。

<子どもたちの様子>

- ・児童の明るく元気で挨拶が清々しい。(日頃の指導の成果が感じ取れます。)
- ・登校時のスクールガードの活動を通して、子どもたちの色々な表情に接することができました。自発的に挨拶ができる子(直感的に3割)。こちらからの声掛けで挨拶ができる子(同5割)。挨拶ができない子(同2割)。立ち止まって目を見て挨拶ができる子にはとても感心します。いつもは元気に挨拶ができるのに不機嫌な子どもも見かけます。友だちを見かけた瞬間に笑顔を取り戻す子も多いです。

毎日会う子でも表情は日替わりです。どの子も学校では笑顔で過ごしてほしいといつも願っています。

今まで挨拶できなかった子ができるようになると成長を感じます。

- ・授業態度は、どの学年も概ね良い。低学年に授業に集中できていない児童が若干見られましたが。
- ・タブレット端末機器を使った授業に児童は楽しそうに取り組んでいました。
- ・健全育成会の行事に、皆で仲良く元気に活動していました。
- ・お休み時間は元気に遊んでいるが、授業が始まると静かに先生のお話を聞いていました。
- ・夏休みの自由研究の作品を見せていただきました。子どもたちの好奇心、探求心、表現力の豊かさに驚かされました。
- ・運動会では、他の学年の演目を見ている時とても良いと思いました。特に、6年生は、係の仕事や応援団等で忙しいと思いますが、責任感が伝わってくるようでした。
- ・運動会は、学校行事の中でも子どもたちが最も楽しみにしている行事の一つだと思います。

今年も紅白ともチームワークのある一体感のある応援が印象的でした。他学年と日常的に交流機会があることで、自然な形でできあがったチームワークなのでしょう。運動が苦手な子どもも、あの一体感を肌で感じて楽しんでいるように感じました。

- ・学習発表会を参観して、全体にのびのびしていると思いました。劇や歌などに大きな声で参加して、一生懸命に取り組んでいる様子が好ましいと思いました。
- ・見る方の子どもたちもマナーを守り、良かったです。
- ・各学年とも子どもたちがしっかりとめあてをもって取り組まれている様子が分かりました。また、やろうとする意欲を感じさせてくれる子どもたちは、この経験がしっかりと自信につながっていくと思います。
- ・学習発表会に向けての練習も大変だったと思いますが、その努力を結実させた舞台発表は素晴らしかった。全員でよく頑張ったと思います。
- ・学習発表会では、子どもが自分の役割をしっかりと理解して発表できていると思いました。

すべての学年に言えることは、まとまりがあって皆で同じ方向に向いて表現できていたと思います。ここでもチームワークの良さを感じました。当然ながら6年生は完成度が高く、最高学年としての自覚の芽生えを強く感じた場面でした。

<教師の取り組み>

- ・教師は、教科の指導はもとより、学校生活のあらゆる場を通して、児童の人間性

を育てていかなければならないと思います。教師と児童のふれあいの中で、児童の人格は高められるのだと思います。そのためには、教師が自身の人格を磨く努力をしなければなりません。

- ICT 機器が積極的に活用されていることは素晴らしい。学習効果を上げるには、授業のどの場面で、どのように機器を活用するか、指導の工夫をすること等が大切だと思います。
- ICT 機器の操作に習熟することが肝要だと思います。授業中に機器の操作に戸惑い、授業に空白の時間をつくってはならないと思います。
- 先生方は健全育成会の行事に、多数参加していただき、とても積極的に協力してください、助かりました。
- 満遍なく子どもたちに意見を言わせているため、子どもたちが楽しそうに授業を受けているように見えました。
- 皆さんで児童の安全に対して協力していらっしゃる様子が見られました。
- 運動会や学習発表会などの大きな行事では、限られた時間の中で子どもたちの持つ力を最大限に発揮させるために、子どもたちへの動機づけに大きなエネルギーを注いでいることと推察します。子どもたちには先生方の熱意がしっかりと伝わり、素晴らしいパフォーマンスが発揮できていたと思います。
「主体的な学びの充実」が表した成果と言えるのかもしれませんが。
- 学習発表会では、子どもたちを引き立て、黒子に徹している様子も、また、指導をして子どもたちを盛り上げている様子も良かったです。
- 子どもたちの意欲を引き出し、最後まで取り組めるよう指導されることは大変だと思います。教師としてしっかり子どもと向き合っていることがとても感じられます。
- 舞台での子どもたちの楽しそうな満ち足りた表情に、先生方の指導の素晴らしさを感じ取ることができました。
- 学習発表会での、すずかけ学級の発表に、湯島小学校の教育の原点を見ることができました。
- 学習発表会の成果を、今後の学校生活、学習活動にどう活かしていくかが課題だと思います。
- 常日頃より先生方のマナー、態度を素晴らしいと感じています。子どもたちのよきモデルとなっていると思います。
- 若くてエネルギーのある先生が多く、学校も明るく活力が溢れているように感じます。祭礼や地域の行事にも多くの先生方に参加していただけることは、学校外での子どもたちの表情を見ていただけるので、たいへんありがたいことです。先生自身が地域の方々と顔が繋がるのが、地域柄や地域の特性を理解する上での近道だと思います。

- ・「地域と連携した教育活動の推進」が進められていると感じています。
- ・様々な PTA 行事に教員が参加して下さることも保護者と教員の連帯感が生まれるので、ありがたいことです。教員、保護者の接点が多いほど互いに見えてくるが増えると思います。特に、今年度は運動会や学習発表会でのコラボレーションは一定の成果があったと考えています。

保護者対象アンケート

質問項目⑤を除くすべての項目で95%超の肯定的（「よくあてはまる」と「ややあてはまる」）な回答があった。項目⑤では10%ほどの否定的（「あてはまらない」）な回答があった。

数は少なくとも、否定的な回答があることを重く受け止め、その対応に努めることが必要であると思う。

後期アンケートでは、すべての質問項目で肯定的な回答が前期アンケートより多くなっている。

アンケートの結果（評価）

質 問 項 目	評 価
① 子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる。	A(95%) △3
② 教員は、子どもたちに、分かりやすい授業をしている。	A(98%) ー
③ 教員は、学校生活のきまり「学習時間」を定着させるように努めている。	A(99%) △2
④ 教員は、チャレンジタイムや宿題等で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る指導をしている。	A(99%) △2
⑤ 学習習慣を身に付けるための宿題の内容や量は適切である。 (A:とても良い B:良い C:多い D:少ない E:わからない)	A・B(91%) △3
⑥ 調べたり、まとめたり、発表したりする学習や課題に対して自分の考えを持ち、意見を交換し合う学習を取り入れている。	A(97%) △2
⑦ 教員は、ICT 機器を効果的に使い、分かりやすく楽しい授業をしている。	A(97%) △2
⑧ 学校は、子どもたちが本に親しめるような環境を整えている。	A(96%) △3

すべての項目において、90%以上の保護者にご理解を得ている。（前期のアンケートでは1項目で90%を下回る評価をいただいたが、後期には90%以上の評価をいただいた。また、次のような肯定的なご意見を多数いただいた。

- ・授業が分かりやく工夫されている。
- ・ICT 機器を学習活動にうまく取り入れ、子どもたちが意欲的に取り組んでいる。
- ・子どもたちは、ICT の活用で効果的に楽しそうな授業を受けることができている

と感じる。

- ・プロジェクターを利用して、友達のリートを皆で共有できるのは良いことである。
- ・漢字検定の実施はありがたい。
- ・司書教諭が図書室に居ていただくことにより、子どもと本との距離が縮まったと感じる。
- ・学習発表会では、学んだことを盛り込んで発表しているところがとても良いと思う。

この他にも、数件ですが、次のようなご意見もいただきました。

- ・ICTをもう少し効果的に使えるのではないか。
- ・ICTの導入には抵抗を感じる。画面をみることより、直に先生と目を合わせる時間の方が大事だと感じる。
- ・校庭開放と併せて図書室開放を検討してほしい。
- ・図書館司書が在中してくれるので、もっと学校や子どもたちの活動に関わることはできないか。
- ・子どもが図書室を利用できる時間が総じて少ないと感じる。
- ・本を読むことの楽しさ、また、習慣を根付かせていただけるような取り組みを希望している。

こうした意見をしっかり受け止めることが必要です。いただいたご意見について、学校としての見解（下記）を通知して、保護者への理解を求めた。

- ・（ICTの導入と授業を受ける姿勢について）学校では、話を聞く姿勢について継続的に指導しています。その中で、タブレット端末の画面を閉じる指示を明確に出すこと、話しを聞く時は話し手の目を見ることの指導を徹底して行っています。
- ・（図書館・図書館司書の活用について）図書室を使った調べ学習、図書館司書を活用した学習活動、地域の図書館と連携を図った学習活動などをより多く取り入れていきます。また、各学級の学級文庫や図書室の蔵書の充実、玄関ホールの一部を図書室の分館化にするなど、日頃から本に慣れ親しむ環境をつくっていきます。引き続き、休み時間の図書館開放を行い、多くの児童が図書館に足を運べるように担任からも声かけを行っていきます。
- ・（本を読むことの楽しさを根付かせる取り組みについて）学習指導要領では、「学校図書館」（図書室）には、①児童が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能と、②豊かな感性や情操を育む読書センターとしての機能を発揮することが求められるとしています。

本校では、国語科、社会科、総合的な学習の時間の学習で、学習・情報センターとしての機能を有効的に活用しています。今年度から配置された学校図書館支援員（図書館司書）と連携し、学習テーマに関係のある図書を選んで用意し、児

童が利用できるようにしています。

読書センターの機能は、休み時間の自主的な読書、学校図書館支援員や読書ボランティアの方にご協力をいただいているブックトークやお話し会で活用しています。児童が図書室を利用できる時間として、水曜日を除く、月曜日から金曜日の昼休みの時間を確保しています。

本校では、読書活動にも力を入れています。毎週火曜日、木曜日の朝 15 分間の読書タイムを設けています。月に一度、読書活動ボランティアの方々による読み聞かせも行っていただいています。学級文庫に加え、今年度は図書館分室として、玄関ホールに図書コーナーを設けました。季節や時事的な話題を踏まえて、学校図書館支援員が本を選定し、学級文庫や図書館分室の本を定期的に入れ替え、児童の読書意欲を高められるようにしています。

学習指導要領では、学級活動において図書館の利用を指導することになっています。今後は、学級活動の時間を中心に学校図書館の利活用を増やすなどして、読書活動の一層の充実を図ります。

アンケートの結果及び寄せられた意見のすべてと学校の取り組みについて全保護者に周知し、学校の考え方への理解を得るように努めているが、併せて、学習指導をする担任の先生と保護者とのコミュニケーションをより深めることが必要だと思う

教職員の自己評価

自己評価は、毎年度同じ評価項目で実施されているが、年度によって教職員の移動があるため、自己評価の結果には若干の違いがみられるが、C,D の評価は極めて少数である。

下表は、学習指導、基礎・基本の徹底及び教育課題に関わる自己評価の結果である。
(学習指導)

質 問 項 目	A	B	C	D	E
① 主体的に解決する問題解決的な学習活動を取り入れることができた。	1	10	4	0	3
② 評価基準を具体化し、指導と評価を一体化させた学習指導を行うことができた。	0	13	2	0	3
③ OJT 研修などを通じて、具体的な指導内容・方法について、研修を深めることができた。	1	14	1	0	2
④ 地域の文化、人材、自然等を学習に取り入れることができた。	4	9	1	1	3
⑤ ICT 機器を効果的に活用し、分かる・楽しい授業	5	8	2	0	3

を行うことができた。					
⑥ 図書館司書や図書館ボランティアなどと連携し、学校図書館を効果的に授業に取り入れることができた。	3	9	1	1	4
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語・生活・体育などでも、問題解決的な学習活動を取り入れていくという意識を持って授業づくりをする。 ・ 教材研究に力を入れ、教師主体ではなく児童主体の学習にする。 ・ 評価基準を毎時間明確にし、ノートや発言を記録していくことで、指導と評価の一体化を図る。 ・ 校内予算でタブレットの漢字ドリルを買いたい。 ・ 学習面に課題がある児童への個別指導の時間が取れない。→休み時間または放課後の時間を使えないか。 					

(基礎。基本の徹底)

評価項目	A	B	C	D	E
① 習熟度別の少人数指導で、個々の学力向上を目指して指導できた。	1	5	3	0	9
② 言語活動を重視し、子どもの言語力の向上を図ることができた。	4	11	0	0	3
③ 10分間チャレンジタイムに取り組み・読み・計算・文章題・音読に取り組ませることができた。	2	6	3	0	7
④ 家庭学習の推進のため、コメントを書くなどの指導助言を行うことができた。	3	8	2	0	5
⑤ 年間計画に基づいて、計画的に道徳教育を進めることができた。	1	11	2	0	4
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師に任せた部分の定着が悪い。→クラス一斉でTTの方が理解させられるのではないか。 ・ チャレンジタイムは行事でカットが多かった。→月曜日はもともとなしの方がよいのではないか。 ・ 指導計画に沿って、計画的な実践を心がける。 ・ 夏休みの学習教室→後日の3日だけでよいと思う。希望制はどうか。手をかけた子を重点的に見たい。 					

(教育課題)

評 価 項 目	A	B	C	D	E
① 計画に基づいて、総合的な学習の時間の実践ができた。	3	7	0	0	8
② 情報機器を活用した学習を取り入れることができた。	7	8	1	0	2
③ 情報機器を活用し、児童の意欲を高めることができた。	6	9	1	0	2
④ 体育の授業改善（めあての明確化、運動量の確保できる授業の実施、体力テストの結果活用、専門家による授業など）が図れた。	1	10	1	1	5

(3) 「生活指導」について

「子どもが安全に楽しく落ち着いて生活できるよう運営を充実する」は学校経営方針の柱である。

学校経営方針を受け、教育目標（・よく考え、粘り強くやりぬく子ども、・力を合わせて、人のためにつくす子ども、・じょうぶなからだところの豊かな子ども）を具現するため、・学習、生活環境の整備 ・子どもと教師、子ども相互の豊かな人間関係の醸成 ・規範意識を高める指導 ・意欲、自覚、自律、自立を促す指導 ・安全管理、安全指導の徹底、など教職員の具体的な行動目標を定めている。

教職員は、行動目標を念頭に、学校生活のあらゆる場面で、子どもと向き合い、適切な指導を行っていると感じた。

学校関係者評価委員の「学校参観シートの記述」

〈教室環境〉

- ・どの教室も清掃が行き届き、掲示物も整理され、学ぶ環境が整えられていることは素晴らしい。
- ・教室がきちんと整理されていて、気持ちが良いです。
- ・乱れているようには思いませんでした。大切に使っていると思いました。
- ・学習の場として、生活の場として、しっかりと整備されていると感じました。
- ・授業参観の折に、オープンなので見やすいが、隣の教室の声や音が気にならないのか少し心配になりました。

〈施設・設備〉

- ・ICT 機器が整備されつつあることは素晴らしい。ICT 機器のメリットを最大限生かすための授業研究を進めることが大切です。

- ・児童の靴箱、傘立て、ロッカー等もきちんと整理・整頓されていて良い。
- ・校門、玄関等、きちんとし、校内共に清掃が行き届いています。
- ・いつうかがっても清潔に保たれていて、素晴らしいと思います。
- ・給食室の改装などが行われ、ますます充実した施設となると思います。その中にしっかりと伝統が守られていることを、伺うたびに感じます。
- ・給食室もきれいになり、子どもたちは楽しみに待っていたことと思います。
- ・工事中でしたので、少々設備（トイレなど）に手が行き届かなかったように思えました。
- ・ある保護者からは、校舎のトイレに和式便器が多くて使いにくいので、洋式便器を増設してほしいという声を聞きました。
- ・読書ボランティアを経験された方からは、図書室の本にゴキブリの卵が付着しており、精神的苦痛を負ったので駆除をお願いしたいとの声もお聞きしました。

〈その他〉

- ・地域の人材、教材の活用を図る特別授業は、大変素晴らしい。
- ・児童の心を育み、人間性を高めることにつなげていくためには、特別授業の前後での指導が大切だと思います。
- ・とても積極的で良い教育をしていらっしゃるので、将来のご父兄にぜひ湯島小学校に行かせてくださいと言いたいです。
- ・園児との交流活動でいつもお世話になっています。湯島の子どもたちの姿は、幼児にとって憧れとなる素晴らしいものといつも感じています。湯島幼稚園から湯島小学校へ、常に子どもたちが期待をもってつながっていける道でありたいと思います。
- ・校庭で、しばしば先生と子どもたちが一緒に走り回っている光景を見かけます。週末の校庭開放では利用する子供が少ないので、学校以外で体を動かす機会がない子どもが多いように感じます。学校からも、校庭開放の活用を促進するような働きかけをしていただくのも良いかもしれません。年々低下傾向にある子どもの体力を向上させるべく、体育の授業以外にも日常的に運動する機会を作ることが肝要だと考えます。早朝サッカーの実施についても、多忙な中で一緒に汗をかいてくださる先生には、とてもありがたいと感じています。欲を言えば、サッカーだけでなく短時間でも毎朝校庭遊びができるとういのではないのでしょうか。

〈保護者アンケート〉

- ・生活指導について、③「学校は、学校生活で起きた問題（いじめ等）に対し、素早く適切に対応している」の問いに、当てはまらないと評価した5%は、どのようなことを学校の対応に納得がいかないと受け止めているのか、気になるところです。

- ・生活指導について、⑨「学校は、子どもの安全管理や事故防止に努めている」の問いでは、ポイントが低下しています。学校の対応に何が不足していると感じているのか、把握しておく必要があると考えます。
- ・保護者や地域との連携について、④「子どものことで悩んだ時には、教職員に相談することができる」の問いでは、4%が相談できないと感じているようですが、教職員と保護者の信頼関係が構築されていないのか、考え方にどのようなギャップがあるのか、こちらもとても気になります。
- ・記名式アンケートでは、本音を言いにくいいため肯定的な評価が高くなる傾向があると思います。前後期のいずれかを無記名アンケートにするなど、その結果のギャップを把握しておくことも重要と考えます。

保護者対象アンケート

各質問項目について、大多数の保護者が肯定的（A…あてはまる、B…ややあてはまる）な回答をしている。

生活指導の取り組みと成果については、95%超の保護者の理解が得られているものと考えている。

しかし、すべての質問項目に、僅かではあるが否定的な回答があることを真摯に受け止め、対処していかなければならない。

アンケートの結果

質 問 項 目	評 価
① 学校は、挨拶・返事・後始末等の基本的な生活習慣を身につけさせるための指導を行っている。	A(99%) —
② 学校は、約束や時間を守ること、相手への思いやりや協力の態度等、自立と共生の基礎となる規範意識を高める指導を行っている。	A(98%) △1
③ 学校は、学校生活で起きた問題（いじめ等）に対し、素早く適切に対応している。	A(95%) △1
④ 学校は、けがや病気の時に、保護者への連絡をすみやかにやっている。	A(98%) △1
⑤ 学校では、子ども一人ひとりが大切にされ、子どもの人権に配慮した教育を行っている。	A(98%) △1
⑥ 学校の教室や廊下の掲示物等は、工夫されている。	A(98%) —
⑦ 学校は、靴や傘やロッカー等の整頓が徹底されている。	A(100) △2
⑧ 校舎内（廊下・トイレ等）は清掃が行き届き、環境が整っている。	A(99%) ▼1

⑨ 学校は、子どもの安全管理や事故防止に努めている。	A(97%) ▼1
⑩ 学校では、普段の授業や道徳の授業を通して、自己肯定感を高められる教育が行われている。	A(97%) △2
⑪ 学校は、意学年交流を通して、上学年が下学年を思いやり、下学年が上学年にあこがれをもち、仲良く、協力して学校生活づくりに取り組んでいる。	A(99%) △1

全ての質問項目において、95%以上の保護者にご理解を得ている。

また、次のような肯定的なご意見を多数いただいた。

- ・異学年交流が多く、とても嬉しく思っている。
- ・落ち葉掃きなどの異学年交流はとても良いことだと思う。
- ・友達同士のトラブルについては、迅速で丁寧に対処していただいていると思う。
- ・心のアンケートがあることで、直接言えないことも言えている。
- ・子どもたちの活動の様子が、写真で掲示されていて、日々の学校生活を見ることができるので嬉しい。
- ・子どもに何かあったときに、すぐ連絡していただけるのでとても信頼ができる。
- ・にこにこ広場にかざってある作品や廊下の掲示物を楽しみにしている。
- ・いつ、どの先生にお会いしても笑顔で気持ちよく挨拶して下さいます。

この他にも、2～3件ではありますが、次のようなご意見もいただきました。

- ・正門周辺がごちゃごちゃしていて、あまり綺麗ではない。
- ・校庭の庭園側は使用されていないのか、プランターが数多く積み上げられており、記念碑周辺は雑草が多く、残念だと思った。

こうしたご意見をしっかり受け止め、学校としての見解（下記）を通知して、保護者への理解を求めた。

- ・定期的に、職員清掃の時間を設定し、学校整備に取り組みます。また、主事と連携を図り、学校内の環境美化に日々努めています。

教職員の自己評価

自己評価は、毎年度同じ評価項目で実施されているが、年度によって教職員の異動等で、自己評価の結果には若干の違いがみられるが、C,Dの評価をする教職員は極めて少数である。

下表は、生活指導に関わる自己評価の結果である。

評 価 項 目	A	B	C	D	E
① 校内や教室の環境整備（清掃・美化・掲示物・動植物）を行うことができた。	3	12	2	0	1
② いじめや無秩序を見逃さず、心の通い合いのあ	4	10	0	1	3

る学級づくりを行うことができた。					
③ 子どもが安心して生活できるような学級づくりを行うことができた。	2	12	0	1	3
④ 「挨拶、返事、後始末」を徹底した指導を行うことができた	2	11	3	0	2
⑤ 相手を思いやる言葉遣いや態度等、自立と共生の基礎となる規範意識を高める指導を行うことができた。	2	13	0	1	2
⑥ 是々非々を明確にし、毅然とした指導が行うことができた。	5	8	1	0	4
⑦ 子どもの生命を、安全、健康を第一に考え、安全指導を組織的に行い、また、問題点には迅速に対応することができた。	7	8	0	0	3
⑧ 日々、子どもの活躍を称賛し、意欲の向上に努めることができた。	4	10	0	0	4
⑨ 「交流及び共同学習ガイドライン」に基づき、特別支援学級と連携を図って指導を行うことができた。	4	11	0	0	3
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちを注意深く観察し、様々なトラブルに対して、話をじっくり聞いて指導するようにする。 ・ 「挨拶、返事、後始末」ができるまで、指導を繰り返し行うよう心掛ける。 ・ 上履き忘れをしたとき、下足はみっともない。→貸し出し用上履きを募って貸し出したい。 					

自己評価の結果をもとにして、各評価項目ごとに改善策を話し合い、共通理解を図り実行している。

生活指導を徹底するためには、全教職員が足並みをそろえ、保護者・地域とも連携して指導することが肝要である。学校も家庭も地域も、子どもの健全育成に、「許さないことは、見逃さない」指導が大切だと思う。

(4) 「保護者や地域との連携」について

保護者対象アンケート

すべてのアンケート項目において、大多数の保護者が肯定的な回答（A…あてはまる、B…ややあてはまる）をしている。

アンケートの結果（評価）

質 問 項 目	評 価
① 学校は、保護者や地域の声を聞き、学校運営や教育活動を進めている。	A (98%) △4
② 保護者・地域による「湯島の学びサポーター」との連携（地域の教材化、地域の専門家による特別授業や交流活動）には、保護者として満足している。	A (99%) △3
③ 学校公開や保護者会、また、学校便りや学年だより、ホームページ等で、積極的に情報を発信している。	A (98%) △3
④ 子どものことで悩んだときには、教職員に相談することができる。	A (96%) △3
⑤ 来校時や電話での本校の教職員のあいさつや対応は、丁寧で適切である。	A (99%) △2

いずれの項目において、95%以上の皆様にご理解を得ている。また、次のような肯定的なご意見を多数いただきました。

- ・高学年と先生方の湯島天神菊まつりへのご参加は、地域性のある文化的な取り組みと感じた。
- ・保護者サポーターは、とてもよい地域連携の在り方だと思う。
- ・ホームページで年間行事を確認できて助かる。また、大きな行事だけでなく、日々の様子を知ることができ、子どもとの会話のきっかけにもなる。
- ・地域の専門家の方々の特別授業は、子どもたちにとって、とても学ぶことが多いと思う。
- ・地域のプロフェSSIONナルの方々のお話や実演などは、子どもたちに多大なる影響を与えてくださっていると思う。
- ・ホームページのアップの時間が早く、楽しく拝見している。

この他にも、2～3件ではありますが、次のようなご意見もいただきました。

- ・保護者サポーターの参加のお知らせをもっと早く知らせてほしい。
- ・学校公開の時間割をもっと早く知らせてほしい。ホームページにも載せていただけると助かる。
- ・ホームページで「行事案内」が見られなく残念である。

いただいたご意見をしっかり受け止め、学校としての見解(下記)を通知して、保護者への理解を求めた。

- ・各学年・学級だよりの発行予定で、次月の一週間分を明記して、お知らせいたします。
- ・順次、学校行事や学校便りを閲覧できるようにします。

(5) 「健康・体力の増進」について

保護者対象アンケート

すべてのアンケート項目において、大多数の保護者が肯定的（A…あてはまる、B…ややあてはまる）な回答をしている。

アンケートの結果（評価）

質 問 項 目	評 価
① 学校は、健康増進や体力の向上に取り組んでいる。	A (96%) —
② 子どもたちは、休み時間や放課後など外に出て、元気に体を動かす習慣が身についている。	A (97%) △1
③ 学校は、子どもたちの健康管理に積極的に取り組んでいる。	A (97%) —
④ 学校は、健康でたくましい心と体を育てるために食育の推進に努めている。	A (94%) ▼1

すべての項目で、90%超の皆様にご理解を得ております。また、次のような肯定的なご意見を多数いただきました。

- ・給食を通して、様々な食材を知り、食や調理への興味を高めています。給食便りのレシピが嬉しい。
- ・給食便りのレシピが嬉しいです。レシピを参考に子どもと一緒に料理しています。
- ・サッカーワールドカップの対戦国の食事を考えて出してくださるのが嬉しい。
- ・湯島スカットタイムや、放課後遊びなど、先生方も一緒になって取り組んでくださっているので、安心しています。
- ・早朝サッカーの実施に多くの先生方のご協力に感謝している。

他に、1～2件ではありますが、次のようなご意見をいただきました。

- ・冬だけではなく、天気の良い日や朝など、なわとびをするなどの体力づくりを進めてほしい。
- ・休み時間の外遊びは、学年問わず狭い校庭で、全力で走っているので、小さい児童にぶつからないか見ていて心配です。

いただいたご意見をしっかり受け止め、学校としての見解（下記）を通知して、保護者への理解を求めた。

- ・（体力づくり）1学期の業間体育では、体育科の学習の基礎基本である集団行動を全校で取り組んできました。2学期の業間体育では、「様々な運動に慣れ親しみ、運動することが楽しい」ことを目標に、業間体育の内容を検討します。また、縄跳びや持久走などの学習カードを作成し、全校で取り組む

ことで、意欲的に運動に取り組めるように指導していきます。

- ・(休み時間の外遊び、けが防止) けが防止や、運動をするスペースの確保のため、休み時間に各学年が、体育館で遊ぶことができるように考えています。

(6) 「教育活動全般」について

教育アンケートへの回答と併せて、様々なご意見をいただきました。教育活動に、多くの方からご理解をいただいております。

- ・日頃から特色ある学校づくりをしていただけて感謝している。2学期も特色ある活動をしていただけるよう望んでいる。
- ・子どもが毎日楽しく安全に学校生活を送れていることに感謝している。
- ・自分が頑張ったと感じている時に、先生から声をかけてくださりありがたいと思った。
- ・2学期から始まったお弁当。先生のおかげで毎日、お弁当づくりをお手伝いしてくれるようになりました。今では、お弁当が終わってしまうのが、少し寂しいです。
- ・アレルギーへの配慮、支援が必要な児童への配慮、プライバシーの配慮など、本当に細やかに対応してくださっていると感じます。
- ・自分の本当の気持ちをうまく表現できないところがあります。今後もカウンセラーの先生と話しながら、自分に、気持ちに向き合っていってほしいと思います。

この他にも、1~2件ずつではありますが、以下のようなご意見もいただきました。

- ・校庭周囲の使用されていないプランター、集められた落ち葉など、綺麗に片付けていただいた方が見栄えが良いと思う。
- ・水泳の授業時数がもう少しあってもよいのではないかと思う。
- ・自主学習をさせるのが難しい。
- ・学校公開で英語の授業を参観したい。

いただいたご意見をしっかり受け止め、学校としての見解(下記)を通知して、保護者への理解を求めた。

- ・(校内美化) 主事と連携を図り、学校内の環境美化に日々努めていきます。
- ・(水泳の授業時数) 体育科の年間授業時数の最低基準と学習内容は、学習指導要領で定められています。これに基づき、本校では、水泳に関わる学習(1・2年は「水遊び」、3・4年は「浮く・泳ぐ運動」、5・6年は「水泳」)の授業時数を、年間8時間で計画しています。これは、小学校体育科における一般的な授業時数です。

水泳に関わる学習の期間中は、各学年が週に2時間プールを使用できるように計画しています。プール使用予定日が雨天の場合は、同じ週に予備日を設定して授業時数を確保しています。

- ・(自主学習) 学校では、自主学習の課題の見つけ方や取り組み方などを継続的に指導しています。また、友達の取り組みなどを紹介して、子どもたちが参考にできるようにしています。

保護者の皆様におかれましては、第1回の保護者会資料の中にある「自主学習メニュー」をもとに、お子様の実態に合わせて内容や量を調節し、学習を促していただけますようお願いいたします。

- ・(英語の授業参観) すべての教科を1年間の学校公開の中で見ていただけるよう計画しています。3学期の学校公開では、外国語活動の授業を公開いたします。

(7) 「特色ある教育」について

特別授業「湯島の学びサポーター」

「地域と連携した教育活動を充実させ、まちと響き合う」ことは、湯島小学校推進する地域に根ざした特色ある教育である。

地域を学習材としてとらえ、積極的に地域の人材の活用を図る、特別授業、特別講座、交流・体験活動等は、地域行事への積極的な参加とともに大多数の保護者に理解されている。

「地域と連携した教育活動を充実させ、まちと響き合う」という意識に基づいた教育活動は、子どもの心を育て、人格を磨き、人間性を高めることに繋がっていくものと考えられる。

今年度は、別表に示すように47回の特別授業を実施した。

学年別の特別授業の回数

1年…4	2年…6	3年…7	4年…11	5年…14	6年…11
全校…5					

特別授業の内容は、安全・安心教室、日本の伝統文化の体験、身近な動物の生態、公共施設の見学、高齢者との交流・社会福祉体験、等々多岐にわたっており、それぞれの学年に相応しい授業内容が組まれていることは素晴らしい。

特別授業は、学校だよりや学年通信ですべての保護者に周知されている。それぞれの特別授業に多くの保護者が参加している。

保護者や地域との連携について問う、保護者対象アンケートの質問項目「外部の人材を登用した特別授業等には保護者として満足している」には、99%の保護

者が肯定的な回答をしている。

教職員の自己評価

地域に根ざした特色ある教育に関わる自己評価では、ほとんどの教職員は肯定的な評価 (A,B) をしている。

下表は、地域に根ざした特色ある教育に関わる自己評価の結果である。

評 価 項 目	A	B	C	D	E
① 保護者・地域による「湯島の学びサポーター」、地域の専門家による特別授業を実践し、子どもの学習意欲を高めることができた。	3	10	2	0	3
② 地域の特性を生かした授業を、計画的に実践することができた。	3	10	1	1	3
【改善策】 ・ 学年としては取り組めたが、自分自身では計画を立てられなかった。⇒管理職の指導を受けたり、地域について調べたりする。					

図書館を使った調べる学習コンクール

夏季休業中に行った自由研究を、今年度も「図書館を使った調べる学習コンクール」に応募した。

湯島小学校では、夏休み自由研究の中から12点が、文京区の中央審査に進み、その中の5点が最終審査に至った。その結果、教育長賞が1点、奨励賞が4点の栄誉を得た

また、上記の5点の研究は「第19回図書館を使った調べる学習コンクール」の全国審査に進み、本校の児童の自由研究が、昨年に引き続き、文部科学大臣賞を受賞した。文部科学大臣賞は日本全国70,056点の応募作品の中から小学生の部は3点しか選ばれないもので、大変名誉なことである。

研究の方法が多様で、動機やまとめや考察が明確に表されており、研究を進める中で見いだした疑問点について追究していることが評価されている。

湯島天満宮の菊まつり

地域を生かした植栽活動として、東京都公園協会の助成を受けて菊栽培に取り組んでいる。栽培は年間を通して、文京愛菊会・保護者有志の指導を受けて丹精し、天神菊まつりに多数の出品をした。関東一円からの見事な栽培菊がそろい、区内の

数校からも出品されていた。

湯島小学校からは、昨年を上回る189鉢が出品された。そして、その中から、金賞を11名、銀賞を14名、銅賞を20名、努力賞を61名と出品者の半数以上が受賞する榮譽を得た。児童、教職員、保護者、地域関係者が一体となって取り組んだ成果であると考えている。

3 今後の改善に向けた意見

(1) 「学校運営」について

- ① 保護者・地域に開いた学校は、ただ単に学校の施設を開放することではない。学校を地域に開くということは、学校経営方針及び教育課程を保護者・地域にわかりやすく説明するとともに、保護者・地域の意見を反映させ、計画性と一貫性と透明性のある学校経営を行うことではないだろうか。

学校運営には、保護者・地域等の意見を反映させることが大切である。そのためには、学校は、保護者・地域からの耳触りのいい声だけを聴くのではなく、保護者・地域の声なき声にも注意深く耳を傾けていくことが必要である。保護者・地域の学校に寄せる厳しい意見は、学校への期待の表れであると考えている。

- ② 特別支援学級と通常学級の子どもが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習を、文京区「交流及び共同学習ガイドライン」に基づいて推進し、特別支援教育の充実に努めている。

湯島小学校で実践されている特別支援教育に、学校教育の原点を見る思いがした。

交流及び共同学習が、子どもたちの触れ合い、共に活動する場、であるとともに、教員が相互に学びあい、磨きあう場になることを期待している。

(2) 「学習指導」について

- ① 教師は、教科を教えるのではない。教科で教えることが大切である。

目先の成績や中学校受験を考え、学力の向上を願う保護者も少なくないのが現状であると思う。学校は、教科の指導を通して、子どもの人格を磨き、人間性を高めることが究極の目的だと考える。

人格を磨き、人間性を高めることで、真の学力が身に付くのではないかと思う。

- ② 子どもは、授業で「わかった」、「できた」と感じたとき、学ぶことの本当の楽しさを知るのだと思う。一人ひとりの子どもに目を向け、子どもに寄りそった指導をすることが肝要である。

少人数指導教諭を活用し、個別指導、習熟度別指導や放課後の指導等に工を凝らすことが大切ではないだろうか。

子どもたちに学ぶ楽しさを身に付けさせることが、子どもの人間性を高め、学力を向上させるという指導理念を、教師が共有することが肝要であると考ええる。

③ 学習習慣の確立、家庭学習の充実、授業への集中を高める指導に取り組むために、学校が目指す教職員像の確立に努める。

○ 想像力と活力にあふれるプロ集団としての教員

- ・徹して一人ひとりの子どもを大切にし、子どもの良さと可能性を伸ばす肯定的な指導観に立った指導に取り組む。
- ・常に児童理解と教材研究に努め、確かな学力が身に付く授業改善を推進する。
- ・自らが最大の教育環境となり、学ぶ意欲を高め、安全で安心して学べる教育環境を作る。
- ・教育公務員としての自覚に立ち、組織の一員として職務に当たる。

○ 個々の教師の指導力・授業力向上

- ・教師全員が個々の指導力・授業力向上のために授業研究を行う。
- ・OJTを引き続き行う。
- ・ICTを活用した授業の報告会を実施し、授業実践・研究の成果を教師全員で共有し授業改善に努める。

○ 東京ベーシックドリルの効果的活用

- ・1、2、3年が国・算・音読、4、5、6年が国・社・算・理・音読を行い、教科は日ではなく週ごとに変える。
- ・ベーシックドリルはチャレンジタイムのみ行う。單元ごとにステープラ止めしたものを配布し、チャレンジタイム内に答え合わせをして、回収する。單元が終わったらファイルにとじる。つまづきの多い部分は、再度行うようにする。

○ 既習学習を振り返ることのできる掲示板の工夫

- ・タブレットを活用し、既習学習を振り返ることのできるように授業記録を重ねていくことで、それを基に問題解決がきるようにしていく。

④ ICTの活用＝学力の向上 ではない。学習効果を上げるには、教師の指導力の向上が必要だと思う。授業のどの場面で、どのように機器を活用するか、授業計画をしっかりと立てて授業に臨むこと、機器を十分に使いこなすこと、等々が肝要だと考える。わかる授業を展開するためには、教師の指導力・授業力の向上が必要だと思う。校内での研修の機会を多くとり、互いに指導力・授業力を磨きあい、高めていくことが必要である。

(3) 「生活指導」について

- ① 運動会や学習発表会などの学校行事では、演技をきちんと成し遂げることが指導の目的ではないと思う。本番までの練習の過程、本番での演技を通して、子どもに「何を学ばせる」のか、その「何を学ばせる」のかの「何」が目的にならないといけないと思う。
- ② 道徳を教科として指導するなど、道徳教育の重要性がいわれている。道徳は徳目を知識として教えるのではなく、道徳的実践力を身に付けさせること、生き方を考えさせることだと思う。
また、道徳は、道徳の時間だけで行うのではなく、学校教育のあらゆる場面で行うものだと思う。
- ③ 子どもの生命、安全、健康を第一に考えた校内巡視を徹底し、問題点には迅速に対応することが大切である。校内巡視の際は、点検項目を細部にわたり定め、見落としのないように努めなければならない。点検カードの工夫と点検の結果が素早く全教職員に伝えられ、対処できるシステムが構築されているが、システムの見直しを怠ってはならない。
- ④ 生活指導を徹底するための方針を明確にし、全教職員が寒暖差のない指導をすることが肝要である。子どもには、「温かさ」の中に「厳しさ」を併せ持った指導を行うことが大切である。怒声で子どもを威嚇するような指導はあってはならない。

(4) 「特色ある教育」について

- ① 有識者、大学、博物館、動物園等と連携した特別授業、特別講座、交流・体験活動、地域講師と連携した伝統工芸、伝統芸能、菊の栽培等の教育活動、オランダ大使館や高齢者在宅サービスセンター等との交流を重視した教育活動が、きめ細かい配慮のもと実施されている。外部講師の選定には教職員だけでなく地域・保護者の協力によるものもある。
- ② 特別授業や地域教育活動は、外部講師のボランティアによって成り立っている。このような教育活動が更に盛んになると、予算措置、教育課程との関連あり、運営が厳しくなってくる。その対応が必要になるのではないだろうか。(区教委との対応も含め)
- ③ 特別授業や地域教育活動は、子どもの心を磨き、人間性を高めるのに相応しい教育活動であると思う。特別授業や地域教育活動を実施する際には、その授業や地域活動で何を学ぶのか、ねらいを明確にするなどの事前指導をしっかりと

すること、そして、学んだことをこれからの学習や生活にどう生かしていくか、などを事後指導できちんと考えさせることが必要であると思う。

4 その他の意見

(1) 家庭との協力について

教育は、学校と家庭・地域が連携して取り組むことで、成果を上げることできると思う。子どもをどのように育て、伸ばしていくか、その目指すところは、家庭も学校も変わるところはない。学校と家庭が互いに連携を取り合いながら、家庭としての責任、学校としての責任を果たしていくことが大切だと思う。

子どもの躾けや基本的な生活習慣などの家庭教育は、家庭がしなければならないのであるが、それが十分に行われていないところに家庭の課題が伺われる。

保護者自身の自己評価

質 問 項 目	評 価
① 子どもとの挨拶（おはよう、おやすみなさい、ありがとう、ごめんなさい等）を大切に考え、行っている。	A(99%) △1
② 子どもは、適切な内容・量の朝ご飯を毎日食べている。	A(92%) ▼1
③ 子どもとのコミュニケーションの時間を毎日とっている。	A(96%) △1
④ 子どもに毎日手伝いをさせている。	C(74%) △1
⑤ 1日1回は子どもの良さや頑張りを褒めている。	B(84%) —
⑥ 子どもの家庭学習を保護者として支援している。	B(89%) △2

質問項目は、いずれも本来なら家庭でしなければならないものであり、当然「あてはまる」という回答が100%期待できる内容であるが、100%「あてはまる」の回答にならないところに家庭の状況が見て取れる。

①と③は、「あてはまる」が96%を超えているので、大多数の家庭での子育ては、問題ないと見てもよいだろう。しかし、「あてはまらない」という家庭もあることを看過できない。

③～⑥では、かなりの家庭において、子育て上の課題を抱えている様子が伺える。

子どもに毎日手伝いをさせる家庭は、全家庭の3/4と少ない。手伝いをさせないのは何故なのか、各家庭の事情を把握しておくことも必要かと思う。

教育は、学校と家庭が連携して進めていくことが大切である。家庭でできない部分は学校が補っていかなければならない。学校では、家庭教育の面から保護者へのアプローチが必要になってきていると考える。

(2) 地域防災計画について

学校は、非常災害時の地域施設として「湯島地区避難所」としての役割を担っている。あらゆる曜日や時間での災害発生を想定して、学校が協力していくことも承している。従って、授業日での地区避難所訓練も必要だと認識している。授業日においては、「児童の安全管理と学校施設管理を担う学校」と「地域防災拠点を担う避難所運営協議会」との双方からの対応が重要である。

学校教育と避難所運営のどちらが先行するのか、混乱をさけるために、文京区防災計画の見地から、区教育委員会と区防災課との十分な協議がなされることを願っている。

学校は、「はじめに子どもありき」で、常に、子どもを第一に考え、対応していくことが肝要と考える。

(3) 施設整備の補修について

学校の施設整備の補修は、学校配当予算内での対応は過重であり、設置者である区での処理をお願いしたい。教育環境の整備を早急に行っていただきたい。

① 校舎内装の改修（教室のドア、教室等の壁面）

子どもたちの学校生活の中で、最も活用されるのが教室である。

湯島小学校が校舎を改築してから、随分年月が経過している。そのため、教室のドアの開閉が重くなり、使用に支障をきたす場合が出ている。学校としても、主事や学務課施設系の技術員へ修理を依頼して、その都度対応している。しかし、経年の変化に吊り式の独特の形状が重なって、サッシのゆがみが起き、不具合が頻繁に発生する状況である。また、教室水周りの壁やパーテーションの表面のシートなどがはがれる等の荒れが見られる。

ドアの不具合は、開閉の際の事故や吊り扉の落下などの危険をはらんでいる。また、壁やパーテーションの表面がはがれていることによって、怪我の発生も考えられる。現状の荒れについて、早急かつ確実に修繕されなければならない。

② 校舎外壁等の補修

校舎外壁やフェンス、及び校庭器具やサッカーゴール等に錆が目立っている。錆は、飛散して子どもたちの目に入ると危険である。

学校においても、安全点検の結果をふまえて、錆落とし等の対応をしている。しかし、校舎外壁等、教職員では対応できないところも多い。全体的な錆落とし、塗装が必要であるので、計画していただきたい。

③ タイルカーペットの補充

湯島小学校のすべての普通教室は、床にタイルカーペットが敷かれている。そ

のため、椅子や机を移動する際の音がでない。

特別支援が必要な児童の中には、音に敏感であったり、大きな音に対して不安を抱いたりする児童が多いといわれている。そのため、タイルカーペットが床に敷かれている湯島小学校の環境は、特別支援教育を進めるにあたっても有効である。

タイルカーペットは消耗品であり、定期的な交換、補充が必要である。現在は、学校の予算で購入して補充しているが、予算には限りがあり、学校だけの対応では不十分である。特別支援教育を推進する意義も踏まえ、タイルカーペットの補充についての援助をしていただきたい。

別紙2 (学校・園→教育委員会提出)

平成27年度 学校関係者共通項目評価(まとめ)

学校名 文京区立湯島小学校

	評価項目	評価のまとめ
1	重点目標(中・短期経営目標含む)が、適切である。 (課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか)	Ⓐ B・C・D
2	具体的取組の設定は、適切である。 (目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか)	Ⓐ B・C・D
3	自己評価の分析は適切である。 (成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか)	Ⓐ B・C・D
4	課題に対する改善策は適切である。 (有効とされる改善策が明確に示されているか)	Ⓐ B・C・D
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 (学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか)	Ⓐ B・C・D
※各委員がつけた点を項目ごとに平均を出す (A:4~3.4以上、B:3.4未満~2.6以上、C:2.6未満~1.8以上、D:1.8未満)		

平成27年度 保護者アンケート(区共通項目)集計結果

湯島小 学校・幼稚園 (回答率 87%)

	質問項目	とても あてはまる (%)	まあ あてはまる (%)	あまり あてはまら ない(%)	まったく あてはまら ない(%)	わからな い・無回答 (%)
1	本校(園)の教育活動に満足している。	70	28	2	0	0
2	本校(園)の子どもたちは、学校が楽しいと感じている。	72	25	3	0	0
3	本校(園)では、一人一人が大切にされ、子どもの人権に配慮した教育が行われている。	69	30	1	0	0
4	本校(園)は、特色ある学校(園)づくりに積極的に取り組んでいる。	77	21	2	0	0
5	本校の授業は、子どもにとって分かりやすい内容である。【小・中学校】	53	43	4	0	0
	本園は、一人一人の幼児理解に努め、適切な保育に努めている。【幼稚園】					
6	本校(園)は、学校(園)生活で起きた問題(いじめ等)に対して、素早く適切に対応している。	66	29	3	2	0
7	本校(園)では、子どもの安全管理や事故防止に努めている。	75	23	2	0	0
8	本校(園)は、保護者や地域に対し、積極的に情報を発信している。	76	22	2	0	0
9	本校(園)は、保護者の意見・要望を受け止めながら、協力して教育を進めようとしている。	72	27	1	0	0
10	来校時や電話での本校(園)の教職員のあいさつや対応は、適切である。	87	12	1	0	0
11	現在の本園に総合的に満足している。(幼稚園のみ)					

平成27年度生きる力実現・学校カパワーアップ事業報告書

学校名 文京区立 湯島小学校
 校長名 原 香 織

対応すべき課題	取組状況	成 果	今後の課題
教員の指導力の向上	校内研究の推進 ・5月11日 第1回 ICT教育研究授業 講師 千葉大学教授 藤川大祐様 ・7月6日 第2回 ICT教育研究授業 講師 千葉大学教授 藤川大祐様 ・10月14日 第3回 ICT教育研究授業 講師 文京区教育委員会教育指導課 様 ・11月9日 第4回 ICT教育研究授業 講師 千葉大学教授 藤川大祐様 ・12月11日 第5回 ICT教育研究授業 講師 千葉大学教授 藤川大祐様 ・2月17日 タブレット端末を活用した ICT教育モデル事業 研究報告会 講師 千葉大学教授 藤川大祐様	・主体的、協働的な問題解決型学習を行い授業改善するための授業デザイン「湯島モデル」を構築し、発表することができた。 ・情報モラルを含む情報活用能力を児童に育成するための手立てとしてのタブレット端末及びICT機器の活用の仕方について研究することができた。	・教員の授業力向上、授業改善に向けた研修を引き続き行う。 ・スマートフォン、インターネットの利用とSNSの利用に関係する情報モラル教育を含む情報活用能力を児童に育成するための手立てについて引き続き研究する。
特色ある学校づくり	湯島の学びサポーター 5月 ・花育 ・論語を学ぶ 6月 ・俳句教室 ・水墨画教室 9月 ・花育 ・消防団について 10月 ・昔遊び体験 (ベーゴマ) ・工場見学 ・花育 ・折紙教室 11月 ・野菜について学ぶ ・演劇教室 ・工場見学 ・原爆先生 1月 ・フラッグフットボール ・ケタイ、インターネット安心安全教室 ・茶道体験 ・高齢者体験 ・農業について学ぶ 2月 ・銀細工体験	・専門家の指導を直接受けることで、児童が正しい知識を身につけ、学習意欲を向上させることができた。 ・地域の人とのかかわりを通して、ふるさと文京への愛着を深めることができた。	・今年度は、事前学習、事後学習を丁寧に行ったため、特別授業における学習の質が向上した。今後も、事前学習、事後学習を丁寧に行う必要がある。 ・年度当初から年間の計画を立て、教科の学習や行事等との関連を図るようにする。

<p>特別授業 総合的な学習 の時間の充実</p>	<p>有識者専門家を招いて 5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュージーランド防災大臣 ニッキーケイ様 ウェリントン TUI GLEN SCHOOL 「異文化国際交流」 ・国立保健医療科学院主任研究官 医学博士 吉田穂波様 「いのちと心の授業」 ・日本漢字能力検定協会代表理事 高坂節三様 「漢字の話」 ・東京大学東洋文化研究所 池田恭子様 「被災復興支援プロジェクト」 ・エネルギー環境理科教育推進 研究所 副理事長 高島勇二様 「放射線について学ぶ」 ・医学博士 藤井輝明様 「ふれあい体験授業（人権教育）」 ・落語家 三遊亭圓窓師匠 「落語の話」 ・イラストレーター 上野啓太様 「子ども湯島百景」 ・作曲家 若松歙 様 「合唱教室」 ・東京女子体育大学准教授 榎本竜二様 「ネットトラブルについて」 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の指導を直接受けることで、児童が正しい知識を身につけ、学習意欲を向上させることができた。 ・質の高い教育活動への理解と信頼を、保護者、地域から得ることができた。 ・問題解決学習を進めることで、児童の課題選択の力、調べる力、自分の考えをまとめる力を向上させることができた。 ・最先端の科学や技術に触れることにより、児童の知的好奇心や探究心を刺激することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、事前学習、事後学習を丁寧に行ったため、特別授業における学習の質が向上した。今後も、事前学習、事後学習を丁寧に行う必要がある。 ・年度当初から年間の計画を立てることで、充実した内容の学習を実施することができる。
<p>菊作り 総合的な学習の 時間の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から、文京愛菊会の方々や保護者サポーターが主事や教員とともに、苗作り、土作りを行った。 ・5月から6月にかけて、児童が鉢に苗を植える作業を行った。 ・7月から10月にかけて、児童が肥料、水やりを計画的、継続的に行って世話をした。 ・8月の夏休みにも、児童が交代で肥料、水やりを行った。 ・5月から10月にかけて、すべての児童の活動を、文京愛菊会、保護者サポーターの方々が支援してくださった。 ・11月には、湯島天神菊祭りに、189鉢出品した。校内にも50鉢近い鉢が残った。 ・11月後半から12月にかけて、200鉢以上の菊が校内を彩った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の栽培活動を通して、生き物を大切にすする心や思いやりの心を育てることができた。 ・地域、保護者が学校の教育活動に参加することにより、地域住民や保護者が学校教育への参加意識をもつことができた。 ・地域の伝統文化への理解を深めることができた。 ・地域の人とのかかわりを通して、ふるさと文京への愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の生命を大切にすする、という視点をもった世話ができるよう、指導する。 ・引き続き保護者サポーターの協力を得られるようにする。